

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	2年	類型	ビジネスコース
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材	新課程 家庭総合学習ノート(東京書籍) 調理実習ノート(基礎編)(愛媛県高等学校教育研究会家庭部会)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4	第6章 食生活を作る	7 これからの食生活 (1)食料生産と食料問題(2)持続可能な食生活を営む力 【SDGsクッキング】	○	◎	○	学習のねらい 1学期は、調理実習を通して、調理の基礎・基本を身に付けていきます。食生活の課題と持続可能な消費生活について学習をし、資源や環境に配慮し消費者として責任をもって行動できるようにします。食生活の学習においてもエコクッキングを意識して、調理実習を行います。 2学期は、シュパット製作を通してSDGsに貢献します。また、食生活に関心を持ち、必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようになります。 3学期は、住生活と経済生活を結び付けて「一人暮らしの住まい計画」を行い、家庭の経済と住居の機能などについて総合的に学習を行います。	
			5 調理の基礎 (1)調理法や味付けのバランス (2)食事の場面を考えた調理 【牛丼・野菜としらす干しのさっぱり和え】	◎	○	○		
	5							
	6		1 食生活の課題について考える (1)青年期の食生活の課題 (2)「食べる」とは (3)食生活の課題 (4)食生活の変化 【サラダ寿司・抹茶白玉】	○	◎	◎		
			3 食品の選択と安全 (1)食品の選択 (2)食品の保存と加工(3)食品の衛生と安全 期末考査	○	◎	◎		
	7		第10章 持続可能な生活を営む	1 持続可能な社会を目指して (1)大量消費社会の限界 (2)よりよい気球環境に向けて	○	◎		◎
		2 一人一人の力で社会を動かす (1)毎日の生活を持続可能にする (2)資源利用の削減			◎			
2 学期	8						学習の目標 SDGsと関連付けた食生活、住生活、消費生活などに関する知識と技術を総合的に学び、家庭生活の充実向上を図る能力や実践的な能力を身に付けます。	
	9		(3)エシカル消費の実践【シュパット製作】	○	◎	◎		
			(4)社会的活動の実践と支援 (5)消費行動で社会を動かす 【シュパット製作】	○	◎	◎		
			【シュパット製作】	○	◎	◎		
	10	第6章 食生活を作る	4 生涯の健康を見通した食事計画 (1)栄養バランスの良い食事 (2)食事計画 【クリームパゲッティ・海藻サラダ】	○	◎	◎		
	11		6 食生活の文化と知恵 (1)日本の食文化 (2)世界の食文化 【回鍋肉・涼拌三条】	◎	◎	○		
	12	第8章 住生活をつくる	1 住生活の変遷と住居の機能 (1)住居の機能と変化 (2)平面図を理解する 期末考査	◎	◎	◎		
		2 安全で快適な住生活の計画 (1)住居の防災 (2)健康な住生活 (3)住みやすさの工夫		◎	○			
3 学期	1		(3)住居の計画【一人暮らしの物件選び】		◎	○	主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。 備考	
			3 住生活の文化と知恵 (1)気候風土と住居 (2)伝統的な日本の住居 (3)さまざまな住様式	◎	◎	○		
		4 これからの住生活 (1)日本の住宅政策 (2)持続可能な住生活	○	◎	◎			
	2	第9章 経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定 (1)消費生活と意思決定 (2)よりよい意思決定のために 【新生活用品の選択】	◎	◎	◎		
			2 購入・支払いのルールと方法 (1)購入と契約 (2)多様化する支払方法 【ローンの仕組み】	◎	◎	◎		
			3 消費者の権利と責任 (1)消費者の権利を生かす (2)社会とつながる消費者 学年末考査	◎	◎	◎		
	3		4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする	(1)家計の構造を理解する (1)家計資産のマネジメント	○	◎		◎
第11章 これからの生活を創造する		1 生活をデザインする (1)生活設計をする (2)自立し共に生きるために (3)これからの社会を創造する			◎	◎		

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 1、2年次に週に2時間の授業があります。
- 2年次ではおもに「消費生活」「食生活」「住生活」について学習します。
- 単元や学習内容により、授業のすすめ方は様々です。時間毎に示される学習目標に到達できるよう、目標をもって授業に臨みましょう。
- 一般的・総合的な学力・知識が求められます。少なくとも中学校までのすべての教科の学習内容を理解しておきましょう。また、社会の変化や情報に関心を持ちましょう。
- ノートは板書だけでなく、口頭で示された重要ポイントも記しておく、復習する時や実習・実践の時に役立ちます。
- 学習した内容について家族と話し合ったり、家庭で実践することで、思考が深まり知識や技術が身に付きます。

【家庭学習】

- 日々の生活に関心をもつとともに、積極的に家事に参加し、家族の一員としての役割を果たしましょう。
- 日々の生活の中で見つけた課題を、学習成果を活用し、解決しましょう。(ホームプロジェクトの実践)

【定期考査】

- 学期末に考査を行います。考査範囲が広いですが、まんべんなく復習しましょう。
- 重要単語だけを暗記するようなことはせず、言葉の意味や背景、課題などと合わせ総合的に理解をするよう努めましょう。
- 板書だけでなく、メモを活用し、授業内容を復習しましょう。
- 実習内容を振り返り、実習のポイントとその理由について復習しましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、実習ノートの整理状況を次のように評価します。 ・定期考査では、主に①知識・技能②思考・判断・表現についての観点から評価します。 ・③主体的に学習に取り組む態度については、出席状況、毎時間の授業に臨む姿勢や提出物の内容、調理実習への取り組み状況や、作品の出来栄などを毎回評価していきます。	
評価の基準	1 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。)
	3 学期	期末考査(①と②の観点から評価します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②と③の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価